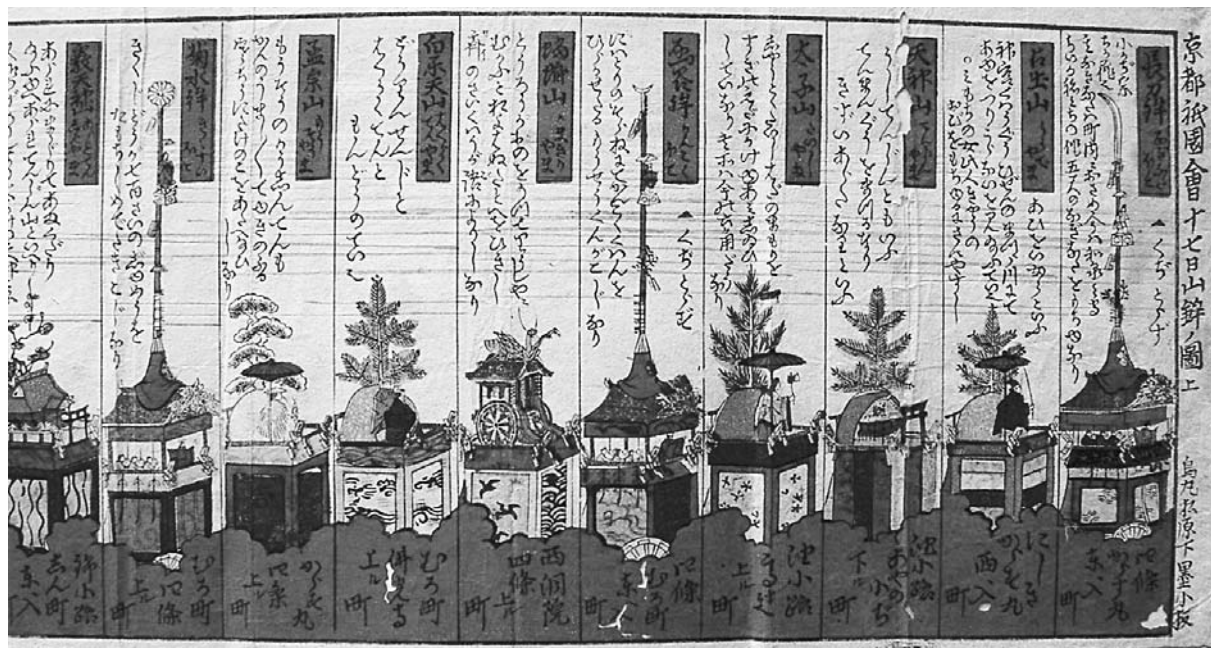




総合資料館だより

2005.7.1 No.144



▲「京都祇園會十七日山鉾ノ圖 上」から

祇園祭の山鉾

この資料は明治17年6月に作製されたもので、祇園祭の先^{さきのまつり}祭に巡行する23の山鉾が描かれています。現在の祇園祭では、山鉾は7月17日にのみ巡行していますが、昭和40年までは先祭(17日)と後^{あとのまつり}祭(24日)とにわかれ、2回巡行していました。

当館ではこの資料の下巻は所蔵していませんが、おそらく下巻には24日の後祭の山鉾が描かれていたものと思われます。

目次	「祇園祭の山鉾」(京都祇園會十七日山鉾ノ圖 上より)	1
	文献課の窓から「災害は、忘れた頃にやってきた—文献課所蔵・災害関係写真貼付資料より—	2
	歴史資料課の窓から「神職達の日常」.....4 最近の収集資料から	6
	展覧会開催のお知らせ、府民講座のお知らせ、友の会事務局から ほか	8

災害は、忘れた頃にやってきた

—文献課所蔵・災害関係写真貼付資料より—

昨年、日本に上陸した台風は10個にのぼり、6個であった平成2年と5年の記録を上回りました。1日あたりの降雨量や短時間強風の観測回数も過去の記録を更新したそうです。京都府でも北部中部で大きな被害を受けたことは今も記憶に新しいところです。

今までに京都では、洪水そのものは数十年に一度は起こっていたといわれ、また一方で、山城盆地は三方を山に囲まれた天然の風弱地帯のため、多くの場合惨禍を免れたともいわれています。

室戸台風（昭和9年9月21日）

ところが、昭和9年9月21日の室戸台風で大きな風水害が起きました。最大風速28m、瞬間風速42m、という明治14年観測開始以来の最大記録となったものです。台風の進路が京都市真上にあったことにもよりますが、家屋倒壊、床上・床下浸水、市電・幹線道路等の被害が生じました。特に京都市内では、神社仏閣の国宝級建物が多数損傷し、音羽山の松林がほとんど倒れてしまったほど、風致林が損害を受けました。

この災害による死者は京都市内で183名、綴喜郡34名、乙訓郡7名、加佐郡6名等といわれていますが、小学校で倒壊等被害の大きかったものが44校にのぼり、多数の児童が下敷きとなって死傷したのは痛ましいかぎりです。



ア 与謝郡内での木橋の崩壊

室戸台風では、北部にも被害がおよびました。アの写真は、与謝郡での復旧作業中の様子です。与謝郡では7名の死傷者の他、全半壊家屋、床上・床下浸水、田畑山林の被害はいうにおよばず、道路決壊、橋梁流出などもおこりました。

京都大水害（昭和10年6月28日から29日）

室戸台風の復旧も十分でなかった翌10年6月、梅雨前線に伴う集中豪雨が京都市内を襲いました。1日の降水量281.6mm、時間雨量30～50mmに達する豪雨が降り、鴨川、高野川、桂川はもとより、市中の小河川が氾濫し架けられた多くの橋が大破し消失しました。中でも鴨川筋は北大路橋、加茂大橋、七条大橋を除く全ての橋が流出または破損しました。

この写真では、鴨川の堤防が崩れているのがわかります。「江戸時代以来、二重堤になっていて、最も分厚い堤防であったが、その三分の二が濁流で流失」（※⑤）してしまいました。



イ 鴨川右岸堤防御園橋下流

このとき、すでに御園橋は流されていたようです。この「鴨川大洪水は、鴨川の歴史にとって、近世的なあり方が最終的に破綻し、近代的な防水対策が行われ今日みる景観へとかかわっていった転換点をなしたもの」（※⑤）といわれています。

ウの写真では、鞍馬電鉄の線路下の地面が流され、宙に浮いているのがわかります。



ウ 鞍馬電鉄岩倉駅西側鉄橋付近

大雨梅雨前線（昭和13年7月4日から5日）による被害

京都市内は浸水等の被害を受けました。

エの写真では、元の川筋も軌道も見えず、あたり一面が海のようになっています。



エ 御室川筋右京区山ノ内嵐電軌道南方氾濫状況

南桑水害（昭和26年7月11日）

防災用ため池の平和池が、集中豪雨のため午前10時頃突然決壊し、篠村や亀岡町に被害をもたらしました。



オ 篠村の給水所

南山城水害（昭和28年8月14日から15日の集中豪雨）

南山城水害の大被災地となった井手町では、「玉川上流のため池である大正池と二ノ谷池が決壊し、一気に流れ下った土石流によって玉川



カ 濁流に吞まれる民家（井手町）

が決壊し、役場や玉水駅舎を含む建物が流失し」（※⑥）、108名もの犠牲者を出しました。中和東村でも101名の犠牲者を出しています。

「30mmであれば前方が見えない位の雨。50mmとなるとバケツをぶちまけたような」（※⑥）雨といわれていますが、京都南部の土木公営所の当時の記録では時間雨量が80mmに達していました。「この豪雨による被害は、死者336名、全半壊・流失家屋1,306戸、床上・床下浸水家屋4,370戸におよぶ大変な事態」（※⑥）となりました。

台風13号（昭和28年9月25日）

さらに同年台風の襲来を受けました。「被害は、丹波・丹後地方、とくに舞鶴や綾部で大きく、府内の死者・行方不明者120名、全半壊家屋9,564戸に及ぶ大災害」（※⑥）でした。南山城では井手町で玉川が再び決壊し、宇治川が観月橋の下流で決壊したため浸水し、旧巨椋池一帯が2,970haも水没したといわれています。



キ 水をかぶった生活用品の乾燥（舞鶴市）

参考文献

- ①『甲戌暴風水害誌』MK0/451.981/Ky6 1935
- ②『京都府風水害記録史』MK0/451.981/Ky6 1954
- ③『京の防災 100年』MK1/369.3/Ky6 1999
- ④『京の橋物語』KS/515.02/MA82 1994
- ⑤『京の鴨川と橋』K1.7/515.02/KA14 2001
- ⑥『水とのたたかい 南山城水害から50年 特別展』MK2/517.4/Y44 2003
- ⑦『暴風雨調査報告 昭和九年九月二十一日』ヨ/990/37 1935
- ⑧『京都市水害誌』MK1/451.981/Ky6 1936
- ⑨『さらさ』NO.71 2005

写真貼付資料

- A『昭和9年9月21日風水害被害写真帳』MK0/517.4/Ky6 [1934]
- イウ『昭和10年6月災害写真帳』MK1/517.4/Ky6 [1938]
- エ『昭和13年7月4・5日出水並被害状況写真』MK0/517.4/Ky6 [1938]
- オ『平和池決壊による南桑田郡亀岡町篠村一帯の惨状』MK32-1/451.981/Ky6 1951
- カ『南山城災害写真帳（写真37枚）』MK27/451.981/Ky6 [1953]
- キ『台風13号災害状況写真』MK0/451.981/Ky6 1953

神 職 達 の 日 常

1. 近代の神社

みなさんは神社についてどのようなイメージをお持ちでしょうか？平安神宮の朱塗りの神殿や伏見稲荷の鳥居、当館の近くにお住まいの方なら、糺の森や上賀茂の社家街を思い出されるかもしれません。

京都は、平安京創建以来社寺の町でもあって、全国的に有名な神社・寺院が数多く、また、全国から集まる信徒・崇敬者の消費が、京都とその周辺の経済を支えていることもご承知のとおりです。創建の事情や系譜がはっきりしている神社も多いことから、神社や神職のあり方自体も、古来から不変のものとして捉えられる場合がありますが、常に変化していく側面も同時に持っています。

この「総合資料館だより」でも近代以降に激変する神社・寺院について、土地の問題を中心として取り上げたことがありました（136号、2003年7月1日発行）。今回は神職の職業団体である京都府神職会に焦点をあてて、当館所蔵の行政文書をご紹介します。神職のあり方・日常を見ていきます。

近代の神社は、神社の格を定めた社格制度によって、大きく官社と諸社にわかれていました。官社は、中世以来の系譜を持つ大社や明治以降に創建された神社によって構成されており、官幣大社・国幣中社などの社格を与えられていました。また、諸社は、村の鎮守や広い崇敬を集めながらも官社ほどの扱いを受けなかった神社などからなり、府社・郷社・村社などと呼ばれていました。両者の違いは様々な面で見られましたが、特に神社の規模の点で、大きく異なっていました。

2. 京都府神職会

これらの神社に勤める神職を取りまとめたのが、京都府神職会でした。明治31(1898)年に設立された全国神職会の京都府支部として、明治38(1905)年8月に正式に発足した府神職会は、神職の間での交流や各神社・神職と府との媒介をその役目としていました。当初から活発に活動しますが、特にその活動が盛んになるのは、今回取り上げる大正の後半から昭和に入ってからになります。

また、制度変更などに関わる重要な課題については、府知事から府神職会会長に諮問を行い、府神職会の総会などでの議論の後に答申を行うという形で、意思形成がなされることが慣例化していました。これは、官社の神職（特に宮司クラス）が一定以上の学識と経験を積み、全国規模の人事異動もあり得る、一種の神社官僚であったことによります。つまり神社のあり方や神社行政については、府の吏員よりも官社の宮司の方が詳しい場合が往々にしてあったのです。府の神社行政は、府神職会ぬきには行い得ないものでした。



▲神社関係の行政文書

しかし、府神職会の内部に問題がなかったわけではありません。たとえば、府庁が事務を代行していた神社協会について、明治37(1904)年から41(1908)年、日露戦争時から戦後すぐの時期の各種書類がつづられた、「神社協会一件」（神社協会一件1）という簿冊は、その大部分が会費未納の処理に関する書類で埋め尽くされているのです。

このことは、単に各神社が経済的に逼迫していたというのではなく、設立間もない神社協会への関心の低さ、特に京都支部へのそれが反映された結果といえそうです。神社協会とは、明治35(1902)年に神社をまとめる全国組織として、国のバックアップのもとに設立された組織であり、会誌『神社協会雑誌』は、神社をめぐる問題を広く取り扱う、いわば半官半民の機関誌でした。また、京都府をはじめとして、ほとんどの府県で神職会組織と対応する形で支部が

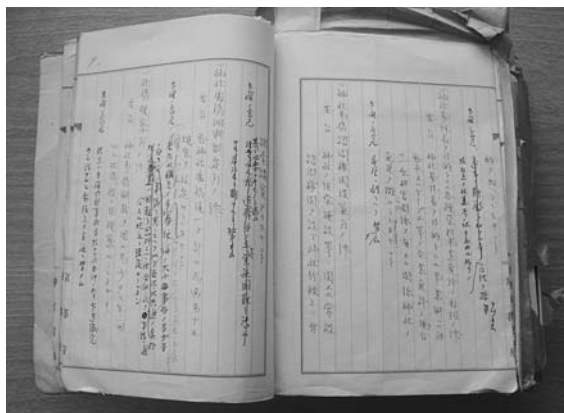
組織されており、この神社協会への非協力は、国の神社行政、ひいては府神職会への不満とも捉えられます。

では、その原因は何だったのでしょうか。すでに『京都府神社庁五十年史』などで指摘されていますが、昭和12(1937)年の段階で、官社は京都府下に20社で神職は88人、諸社は2684社で神職は136人という、全国的に見ても官社に勤務する神職の多い極めて特異な構成になっていました。これは、官社には神職が複数勤務しているのに対し、諸社では1人の神職が非常に多くの神社の神職を兼務することを示しています。宮司を頂点に十数人規模の神職・雇い人をかかえ、全国に崇敬者を持つ京都市とその周辺の巨大神社と、集落の鎮守として専任の神職さえもたずに、地域の有力者の手で運営されているごく小さな神社との間で、立場の相違が非常に大きなものであったのです。神職会はこのような矛盾を内部にかかえながら、府の神社行政に密接に関わっていきます。

3. 神職の要望

昭和4(1929)年9月に開催された、官社の宮司と京都府社寺課との懇談会の記録が、「昭和五年 神社 営繕・経済・雑」(昭5-47)という簿冊に綴られて残っています。この資料は懇談会当日に各宮司から出された要望に対して、府からの回答を記した形になってます。この懇談会自体は、前年から行われはじめた新しい試みだったようですが、宮司側からは祭儀・職員待遇・府と神社との関係・予算上の措置などについて、実に様々な要望が出されています。

さらに注目されるのは、この回答案には多くの部分に幾重にも修正がなされており、事項によっては当初の案とは全く逆の記述となっている場合もあることです。たとえば、職員待遇問題について、「考慮しつつあり」という案が抹



▲多くの修正がほどこされた「意見要旨(案)」

消され、「実行上は困難なり」という記述になっています。協力関係を維持すべき府神職会からの要望に対して、実際に行政を行う府が回答に苦心した様子がうかがえます。

4. 昭和恐慌と神社

昭和4(1929)年にはじまった世界恐慌に直撃され、日本経済は大不況に陥ります。各神社も経営に悩み、いくつかの神社は「国庫供進料」の増額を求めます。その願書には「社入金は本年四月以降著しく減収」する中、「大都市に存在する官社として其の体面を保持するに至難を感じ」と、苦しい状況が述べられています。結局この増額願は、一社のみ認められています(昭5-47)。

このような状況のなか、京都府は昭和5(1930)年6月に氏子及崇敬者総代会を各市郡単位および適当な区域毎に設けるよう、府神職会と府下の各市区町村長に勧告を行います。この総代会は、各神社の氏子の代表であり、神社運営に深く関わっている氏子総代と講社などの崇敬組織の代表者を組織しようとするもので、規約案によると「神社崇敬の実を挙ぐる」ことを目的としていましたが、「氏子総代相合し氏神の尊厳特徴並維持方法を語り合い」(趣意書案)などという文言も同時に見られることから、実状は、経済不況のなかでの神社の維持・経営について、各総代のあいだで情報交換を行って、連携を強めようとのことだったようです。

なお、この動きは昭和4年の初夏からはじまっており、前述の慣例にしたがって、府神職会からも十分に意見を聴取してから、総代会の趣意書・規約案が作成されています(昭6-55)。

また、この時期は、一方では神社が多角経営に乗り出していく時期でした。「ホテル乃至料理屋等がその都市の有名神社と契約して出張祭典の執行をなすことは普通のこととなって」おり、その出張祭典をいかに多く獲得するかの競争が、猛烈に行われているとも報道されています(『中外日報』、昭和6年11月27日付)。ある神社の神職が、観光会社の役員に就任するのもこの前後のことです(昭6-55)。

以上、いくつかのトピックを取り上げて神職と府との関係を見てきました。この後、急速に神社・氏子への統制を強めていく国の施策に様々な形で関わりながら、神職会は昭和16(1941)年に大日本神祇会京都府支部と改称し、組織を引き継ぐことになります。

(歴史資料課・行政文書担当 福島幸宏)

◆図書資料

<京都>

源平京都 源義経と平家物語の人々 川端洋之文 中田昭写真 光村推古書院 2004 95p

源義経と源平の京都 川口正貴・わたなべのりこ編 ユニプラン 2004 176p

京都町共同体成立史の研究 五島邦治著 岩田書院 2004 341p

上林風土記 旧京都府何鹿郡中上林村 資料集・写真集 上林風土記編纂会 2004 2冊 寄贈

冷泉家歌の家の人々 冷泉為人監修 書肆フローラ 2004 283p

京のわる口、ほめころし 京の不思議と素敵な話 石橋郁子著 淡交社 2004 165p

京都人の舌つづみ 吉岡幸雄著 PHP研究所 2004 235p

祇園は恋し 柏木健一著 文芸社 2004 239p

京のオバケ 真矢都著 文芸春秋 2004 198p

梅小路90年史 西日本旅客鉄道〔編〕刊 2004 288p

豆腐道 森井源一著 新潮社 2004 173p

平山郁夫平成洛中洛外図 平山郁夫著 講談社 2004 159p

洛(みやこ)の衣裳模様 洛中洛外図による一江戸初期一 橋本澄子著 2004 252p

京都電車唱歌 山田信次著 楠美恩三郎作曲 杉本甚之介・中澤達吉刊 1913 22p

明治33年の『鉄道唱歌』の大流行後、各地で作られた類書のひとつと考えられます。この唱歌は、現在出版されている唱歌集に収録されておらず、まぼろしの電車唱歌と言えます。市内中心部を走る市電、京電の路線だけでなく、嵐山、京津、京阪、伏見線についても歌われています。



野外博物 京都博物同好会 年2回、後年刊 1巻1(昭14.6)～5巻1号(昭18.12)

京都博物同好会は昭和12年に府内の教員を中心に設立された団体であったようです。その会誌『野外博物』は、益富地学会館の益富壽之助氏の論文や、「京都市及其の附近のかたつむりに就いて」「山城宇治田原村の化石」「洛南巨椋池植物採集記」など、地元ならではの調査・報告が中心となっています。



<人文>

古典籍が語る 書物の文化史 山本信吉著 八木書店 2004 274,24p

幕末・明治豆本集成 加藤康子編著 国書刊行会 2004 398p

近世近代町家建築史論 大場修著 中央公論美術出版 2004 622p

日本古代道路事典 古代交通研究会編 八木書店 2004 437p

日本語源大辞典 前田富祺監修 小学館 2005 1273,7p

日本中世社会と寺院 大石雅章著 清文堂出版 2004 395p

巨大古墳と古代国家 丸山竜平著 吉川弘文館 2004 357p

戦国時代の考古学 小野正敏・萩原三雄編 高志書院 2003 614p

国別藩と城下町の事典 工藤寛正編 東京堂出版 2004 661p

古代熊野の史的研究 寺西貞弘著 塙書房 2004 264p

チチェローネ イタリア美術作品享受の案内 建築篇 ヤーコブ・ブルクハルト著 中央公論美術出版 2004 586p 図版12p

明治後期油画基礎資料集成 東京芸術大学収蔵作品 研究篇・図版篇 中央公論美術出版 2004 2冊

海を見ていた 房総の海岸物語 飯田樹撮影 出版芸術社 2003 107p

板谷波山 荒川正明編 小学館 2004 237p

織の海道 八重山、宮古編 「織の海道」実行委員会 2002 283p 寄贈

紀州徳川家伝来楽器コレクション 国立歴史民俗博物館 2004 414p (国立歴史民俗博物館資料図録 3) 寄贈

***近江の障壁画** 石丸正運・磯博著 京都書院 1981 274p 寄贈

***仏教画像聚成** 六角堂能満院仏画粉本 上・下巻 京都市立芸術大学芸術資料館編 法蔵館 2004 2冊 寄贈

***木版本源氏物語絵巻** 図書出版MIZUNO 2003 56枚 寄贈

***花と土の詩** 日本画黒光茂樹画集 黒光茂樹著 京都書院 1992 151p 寄贈

***熊谷守一油彩画全作品集** 熊谷榎他監修 求竜堂 2004 425p 寄贈

***陶・山田光の世界** 「陶・山田光の世界」刊行会編 世界思想社 2004 259p 寄贈

***黄八丈唐棧手控** 吉本嘉門昔裂コレクション 吉本嘉門著 木馬書館 2002 51丁 寄贈

***日本色彩大鑑** 松本宗久著 河出書房新社 1993 6冊 寄贈

*印の資料は、財団法人京都高等学校から御寄贈いただきました。

〈官庁〉

淀川水系山科川浸水想定区域図 合場川、旧安祥寺川、安祥寺川、四宮川、西野山川、西野山川支川、藤尾川を含む 京都府編刊 2005 1冊

環境白書 平成16年度版 京都府企画環境部環境企画課編刊 2005 227p

公共用水域及び地下水の水質測定結果 平成14年度 京都府企画環境部環境管理課編刊 2005 227p

京都府統計書 平成15(2003)年 京都府総務部統計課編刊 2005 390p

京都市統計書 平成16年版 京都市総合企画局編刊 2005 371p 寄贈

京丹後市例規集 平成16年 京丹後市編刊 2004 2547p 寄贈

受け継がれるもの 伊根町制施行五十周年記念誌 伊根町編刊 2004 74p 寄贈

消費者物価指数年報 平成16年 総務省統計局編刊 2005 512p 寄贈

水害統計 平成15年度 国土交通省河川局編刊 2005 445p 寄贈

公立学校施設実態調査報告 平成16年度 文部科学省大臣官房文教施設企画部編刊 [2004] 16p 寄贈

地方選挙結果調 平成15年4月執行 総務省自治行政局選挙部編刊 2004 533p

医療施設調査病院報告 動態調査 平成15年上巻・下巻 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2005 2冊

人口動態統計 平成15年上巻・下巻 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2005 2冊

介護サービス施設・事業所調査 平成15年 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊 2005 717p

地方財政白書 平成17年版 総務省編 国立印刷局 2005 1冊

学校保健統計調査報告書 平成16年度 文部科学省生涯学習政策局調査企画課編 国立印刷局 2005 150p

電力需給の概要 平成16年度 経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部編 中和印刷 2005 353p

文部科学白書 平成16年度 文部科学省編 国立印刷局 2005 483p

地価公示 平成17年 国土交通省土地鑑定委員会編 国立印刷局 2005 921p

都市交通年報 平成16年版 運輸政策研究機構 2005 389p

◆文書資料(新しく公開する資料)

三光院内府清談 三条西実枝著の有職故実書の写本。内容は中世末の論旨、勅書、公卿の人員数など。天保8(1837)年、山科言成の写。1点。

旧峰山町役場所蔵文書(峰山藩関係文書) 京丹後市が所蔵する峰山藩関係文書。御用諸事記、社寺日記、掟、士卒家禄帳等。延宝3(1675)年～明治7年。マイクロ収集。

峰山図書館所蔵 郷土関係資料(峰山藩関係文書) 京丹後市が所蔵する峰山藩関係文書を中心とした資料。国絵図などの大型絵図、吟味書、掟、御用日誌、村高帳ほか。郷土史家永浜宇平の写の古文書も含まれる。元禄3(1690)年～明治期。マイクロ収集。

安達家文書 西陣高機八組織屋仲間関係資料(株札添状、出銭受取通、貼札)、近代の家屋敷売券、種痘証ほか。天保11(1840)年～明治期。21点。寄贈。

展覧会開催のお知らせ

当館では、7月から年内にかけて、次のとおり展覧会を開催する予定です。

会場は、いずれも2階展示室で、入場無料です。是非ご観覧ください。

□収蔵品展

普段ご覧いただく機会が少ない館の収蔵品を展示公開します。

会期 7月19日(火)～8月31日(水)
(8月10日(水)は休館)

内容 ・京 食の系譜(図書資料)
・義経伝説(図書資料)
・江戸幕府関係資料(古文書)
・行政文書に見る文化財保護のあゆみ
(行政文書)
・黒川翠山撮影写真(写真資料)
・吉井勇資料(近代文学資料)

□第20回東寺百合文書展「中世東寺の年中行事(仮称)」

会期 11月1日(火)～12月4日(日)【予定】
(11月3日(祝)、9日(水)、23日(祝)は休館)

内容 年中行事を通じて東寺の性格の変化を概観する。

総合資料館府民講座のお知らせ

◇9月22日(木) 午後2時～

中村武生氏(佛教学非常勤講師)

演題「ミヤコを囲うー豊臣秀吉と御土居堀ー」

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。

*満席で受講をお断りする場合があります。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

メール shiryokan-shomu@mail.pref.kyoto.jp

友の会事務局から

◎平成17年度の友の会会員は、6月1日現在で354人となりました。

性別	継続	新規	計
男性	161人(45.5%)	40人(11.3%)	201人(56.8%)
女性	132人(37.3%)	21人(5.9%)	153人(43.2%)
計	293人(82.8%)	61人(17.2%)	354人(100%)

◎平成17年度の役員会を、5月24日(火)に開催しました。この役員会で、平成17年度の事業計画が、次のとおり決定されました。

- ・現地講座(春期)
- ・見学会(秋期)
- ・総合資料館府民講座(総合資料館と共催)
- ・「東寺百合文書展」及び企画展の列品解説
- ・古文書解説講座の案内及びテキスト送料の補助
- ・「総合資料館だより」の頒布(年4回)
- ・京都文化博物館及び池大雅美術館の入館料割引

◎5月31日(火)、163名の会員の皆さんの参加を得て、智積院(京都市東山区)において現地講座を実施しました。

金堂で、智積院の歴史などのお話を聞いた後、名勝庭園、国宝障壁画等を案内していただき、見学しました。

◎随時入会の申込みを受け付けています。

問合せ先:友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

日誌(平成17年3月～5月)

- 3.2(水) 府民講座(第23回)
- 3.15(火) 第171回古文書相談
- 3.17(木) 府民講座(第24回)
- 3.31(水) 「所蔵資料データベースー京都北山アーカイブズー」公開資料追加
- 5.18(水)～20(金) 収蔵展示室の一般公開
- 5.20(金) 府民講座(第25回)
- 5.24(火) 第172回古文書相談
- 5.31(火) 友の会現地講座(智積院)

利用案内

休館日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期、年末年始(12月28日～1月4日)

【7月～9月の休館日】

7月13日(水)、7月18日(祝)、8月10日(水)、9月14日(水)、9月19日(祝)、9月23日(祝)

*9月下旬から10月中旬にかけて2週間程度臨時休館する予定です。

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧ 北山駅前下車
京都バス⑳、④⑤、④⑥ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています